

# 平成30年度 学校評価報告書

## 1 本年度の重点目標

- |   |
|---|
| 1 確かな学力の育成と効果的な授業の展開<br>2 心身の健康と安全教育の展開<br>3 変化する社会に対応するキャリア教育の展開<br>4 開かれた学校、信頼される学校づくりの展開 |
|---|

## 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している    B おおよそ達成し    C あまり達成していない    D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務	・学校ホームページのタイムリーな更新。 ・情報ツール（コミュニケーションツール）の有効活用によるPTA関連の双方向の連絡 ・保護者や地域から寄せられた情報の職員間での共有とその改善策の構築 ①	・学校ホームページの内容を関係部署（図書情報・探究推進部）と検討し、掲載の流れとレイアウトの変更を行った。 ・ホームページの形式の変更を会議や回覧を通して計画的に周知し、スムーズな移行ができた。 ・評価アンケートの結果は肯定的意見がやや下降 保護者84.8%（昨年85.0%、昨年81.4%）生徒79.0%（昨年87.8%、一昨年81.4%） ・緊急メールシステムやスワンメールを活用し、PTA・教育振興会、同窓会役員と双方向の連絡や情報交換を行うことができた。  【課題】ホームページの掲載記事のアップの呼びかけと関係部署との連携 【改善の方策】担当者を部内で決め、業務内容を検討し、関係部署との打ち合わせの時間を確保する。	B	B	A
	・PTA、教育振興会ならびに同窓会の役員との連絡の方法の検討と実施PTA、教育振興会ならびに同窓会役員会および総会の参加率を向上 ②	・各役員への連絡を、紙媒体の他にも緊急性に応じて、「電話、FAX、緊急メール」などで柔軟に対応し、役員会などの連絡が確実なものとなり、協力体制を整えることができた。 ・PTA、教育振興会の出席率は昨年度並み、同窓会役員会および総会の参加率は増加した。  【課題】①PTA定例役員会やPTA活動（マナーアップ運動、あいさつ運動）への参加希望者の増加 ②PTA総会への職員の参加率向上 【改善の方策】①早期の案内、連絡（1ヶ月以上）を行う ②教職員全体への呼びかけと共通理解により、参加人数の確保する。	A	A	A

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務	③ ・学校行事、式典の計画を早期取り組み、係分担を担う分掌部や学年などへの連絡調整と円滑で効率的な運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事、式典の計画について部内で早期の検討を心がけたが他の業務（学年・担任・教科など）と重複し滞ることがあった。</li> <li>・式典の会場準備において、職員全体として係り分担が行いやすく効率的な運営となるように努めたが、職員の人数確保が難しく、分担に偏りが生じた。</li> </ul> <b>【課題】</b> ①部会の実施が可能な体制づくり（時間設定と人員配置） ②式典の計画の早期取り組みと連絡調整 <b>【改善の方策】</b> ①部会の設定時間の確保（時間割）と部員の配置についての検討をお願いする。 ②年度末・年度初めの引き継ぎを適切に行い、役割分担を検討するとともに、各学年と業務分担を話し合う。	B	B	A
	④ ・防災活動や地域での活動（マナーアップ運動、交通安全指導など）の担当職員や分掌部との内容共有と保護者や地域に向けた適時の広報活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災活動やボランティア活動など担当する分掌部と連携して、活動内容をホームページや各種通信などを通して広報した。</li> <li>・創立記念行事の持ち方を検討し、「E S D 発表会」として実施した。</li> </ul> <b>【課題】</b> 防災教育に関する本校の取り組みへの生徒や保護者会への広報 <b>【改善の方策】</b> P T A 総会、学年会などで本校の取り組みの紹介や報告を行う。	B	B	A
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しずつ更新及び周知の改善が進んでいる。</li> <li>・活動が多様化する中で、役割が重要となると思うが、仕事は円滑に行われているのか。</li> </ul>				

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教務	① ・効果的な運用はできたか。 ・新学習指導要領にむけた教育課程の検討は進んだか。	○新学習指導要領を見据えた教育課程について、複数回に渡って教育課程検討委員会を開催し審議を重ねた。 【課題】 ○新教育課程の完成にむけては、まだ検討中である。 【改善の方策】 ○新教育課程の審議の過程で明らかになった検討事項について、各教科と連携しながら細部を詰めていく。他校や外部機関の情報収集にも努め、年度内には原案として提示できるよう進めていく。	B	B	B
	② ・工夫と改善に取り組めたか。 ・災害科学科の教育課程を研究したか。	○担当の先生方の尽力によって、自作教科書による学校設定科目の運用がスムーズにおこなえた。また、校外での研修や巡検も充実した内容で実施できた。 【課題】 ○災害科学科については、3年間の総括を行い、カリキュラム全般についてと、課題研究の内容・進め方・評価の仕方等について、さらなる改善のための検討が必要である。 【改善の方策】 ○早急に研究・検討を進め、可能であれば新学習指導要領を待たずにマイナーチェンジをおこなう。 ○課題研究の内容と評価についての検討は、SSHの指定に伴い普通科においても急務となる。各委員会と連携して早急に進めていく。	B	B	A
	③ ・新入試制度に向けた検討は進んでいるか。	○新入試制度に対応した選抜方針、選抜方法を確定するとともに、外部に向けて周知をおこなった。 【課題】 ○新入試制度についての周知は、今後数年間かけて定着を図るべき課題である。 【改善の方策】 ○新入試制度の周知も含めて、さまざまな場面で本校の特色をアピールするため、オープンスクール・学校説明会等の内容についてさらに検討していく。	B	B	B
	④ ・学習を基本とした生活習慣の確立に取り組めたか。また、時間割を円滑に実施できたか。	○学習を基本とした習慣を身につけるため、「ベル着指導」をおこなった。ベル後にロッカーで授業準備をしている生徒はほとんどみられなくなった。 ○時間割編成では、各クラスの科目・教科のバランスを考慮し編成した。 【課題】 ○授業変更において、教室割りが重複したり、教員・生徒への連絡が行き届かなかった場面があった。 【改善の方策】 ○時間割変更の際、十分に留意する。 ○正味50分の質の高い授業をめざし、今後も「ベル着指導」を継続していく。	B	B	A

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教務	⑤ ・観点別評価を取り入れているか。 ・成績処理を円滑の行ったか。	○シラバスにESDの観点を盛り込んだり、定期考査の問題を4観点より作成することを実施した。 ○成績処理については、教務支援システムの運用がスムーズに行えた。また、ミスの防止のための呼びかけも徹底しておこなった。 【課題】 ○新学習指導要領等に対応した新しい評価のありかたの検討を進めることが必要である。 【改善の方策】 ○大学入試制度改革を見据えた評価方法を検討し、提案していく。	B	B	A
	⑥ ・授業評価の実施とその検証が効果的におこなえたか。 ・教員研修は効果的におこなえたか。	○授業評価をおこない、その集計結果と分析を各教科にフィードバックした。 ○互見授業を5、11月の2回実施し、教員がお互いに刺激し合う土壌づくりを行った。 ○公開授業の中で、ICTやALを取り入れた授業展開が見られた 【課題】 ○結果の集計と各教科へのフィードバックまでは行えたが、それを活用して各教科毎十分な検証ができたとは言いがたい部分もある。 【改善の方策】 ○実施時期・実施方法なども含めて、授業評価のより効果的な運用の仕方を検討する。	B	B	A
	⑦ ・校内諸規定の改善を実施したか。	○定期考査実施における運用の見直し、評価規定の改訂等に取り組んだ。 【改善の方策】 校内諸規定の見直しを継続しておこなう。	B	B	A
	⑧ ・SSHと連携した教育課程の運用や研究ができたか。	○SSHに伴う学校設定科目の申請および教育課程の作成は滞りなく行うことができた。 【課題】 ○運用および研究に関してはSSH委員会および担当者に任せてしまう場面が多く、教務としてのサポートは充分ではなかった。 【改善の方策】 ○SSH委員会と連携しながら、教育課程の運用・研究を進めていく。	C	B	B
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入試制度への対応は、学校の重要な責務であり、決して他校に遅れをとらないようにしてほしい。</li> <li>・SSHは、その目的、目標、意義について、学校全体で共有することが必須である。</li> <li>・SSHをはじめ、新しい取り組みが多く、既存、基本の取り組みとの関連が難しいと思われる。必要な資源が充足されているのか。高校として成果の蓄積を進める仕組みづくりが不可欠である。</li> </ul>				

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	① 頭髪や服装など、ルールに則った規律ある学校生活を送らせる。 交通安全に対する意識を高めさせる。また、自転車運転マナー及び電車乗車マナーを身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動生徒による昇降口での挨拶運動を通年でを行い、制服の正しい着こなしを定着させた。</li> <li>風紀委員による笠上トンネルにおける交通安全指導、教職員による街頭立ち番指導を行い、交通安全に対する意識高揚を図った。</li> <li>生徒理解(入学時の地毛に関するアンケート)及び定期的な頭髪服装検査を行い、入学当初から生徒の実態に見合った頭髪指導を行った。</li> <li>生徒会執行部及びPTA役員による下馬駅マナーアップ運動(年二回)を実施し、公共の場にマナー遵守に対する意識を高めさせた。</li> </ul> <p>【課題】 服装頭髪に関しては良好な状態を維持できている。しかし、指導の手を緩めるとその状態が崩れやす可能性がある。</p> <p>【改善のための方策】 HR、授業、学年集会、部活動など、それぞれの場面を指導の機会だと捉え、教員側が「指導する姿勢」をしっかりと持ち続けるよう声がけする。</p> <p>【課題】 交通事故件数は平成27年度14件、平成28年度12件、平成29年度10件に対し、平成30年度は13件とやや増加した。</p> <p>【改善のための方策】 もらい事故等含め「不慮の事故」に遭う危険性や、生徒が加害者になる可能性も十分に考えられるため引き続き全職員による交通安全指導を継続していきたい。</p>	B	B	B
	② 生徒会行事や委員会活動を自主的に運営できるよう、適切な援助を心がけ自立的な活動ができるようにさせる。 部活動を通じて学校の活性化を図るために設けた「多高基準」によって、各部共通の規律ある活動を行わせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>風紀委員を中心とした駐輪指導や笠上トンネルにおける交通安全指導を行い、自己統治による規範意識の確立の努めた。</li> <li>防災減災活動をテーマとした生徒会交流、ボランティア活動、各種フォーラム、サミット等への参加や、IACを中心とした防災減災活動を通じ地域との交流を行うことで、活動全般の見直しや提案事項の検討を積極的に行なった。</li> <li>多高三大行事(球技大会、多高際、体育祭)の企画運営。</li> <li>評議委員、生徒会執行部を中心とした生徒会総会、壮行式等の自主的運営。</li> <li>部活動における清掃ボランティア。</li> </ul> <p>【課題】 ボランティア活動、学校間交流など数多くの対外的な活動を行い、生徒の主体的な学びの機会を得ることができたが、今後は生徒会活動の内容、その意義がさらに学校全体に浸透させる必要がある。</p> <p>【改善のための方策】 全校生徒を対象とした研究発表の場を充実させ、わかりやすい活動報告を丁寧に行い、また生徒会新聞、HP更新などを行うことで情報の発信に努めたい。</p>	B	A	A

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	<p>③ 生徒や保護者に対して「生活指導方針」及び「懲戒に関する規則」を明示し、学校と家庭の共通理解のもとで生活指導できるよう配慮、徹底する。</p>	<p>・予備登校、PTA総会における保護者への「生活指導方針」及び「懲戒に関する規則」の説明を行い、義務教育から義務教育後中等教育へのつながりをスムーズに行うことができるよう心がけた。</p> <p>・いじめ問題対策委員会の実施(年二回)を行い、いじめ問題対策に係る情報を共有した。</p> <p>・教育相談員会における生徒情報の共有。</p> <p><b>【課題】</b> いじめ問題対策委員会を立ち上げ情報交換の場を設けているが、いじめ問題に対する本校の取り組み、指導計画、指導内容に対し、保護者からの理解が十分得られているとはいえない部分がある。</p> <p><b>【改善のための方策】</b> いじめ問題対策がSNS利用に関する指導と深く関係があることを示しながら、本校のいじめ問題に対する取り組みについて、HPや学校新聞等を通じ粘り強く発信していきたい。</p>	B	B	B
学校関係者評価者による意見	<p>・生徒がより“主体的”に活動するように、更なる指導を願う。</p> <p>・いじめ問題に関して、SNS利用に限定的であり、見えにくいのではないかと。実態の把握に取り組めるのか。</p>				

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
進路指導	① ・学年と連携できたか。 ・生徒に進路を考えさせる取り組みができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年主任が進路指導部ということもあり、学年と連携を図りながら計画的に取り組むことができた。</li> <li>面談やLHR等を通じて、生徒が進路選択について考える機会を与えることができた。</li> </ul> ※1/8現在、進路内定104名/267名。 <b>【課題】</b> ・第一志望の早期決定。 <b>【改善の方策】</b> ・面談やHR等を通じて、生徒が自己の適性をや社会的役割を考えさせる機会を増やす。 ・的確な進路情報取得の方法を生徒に考えさせる。	A	A	A
	② ・外部講師の講演や、校外進路行事（オープンキャンパス等）への参加を通して進路意識を高めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各大学のオープンキャンパス、アカデミックインターシップ、大学模擬授業、社会人講話やボランティア活動など、校外の人とつながりを持つことで、生徒たちの進路意識は確実に高まった。各学年団の生徒への働きかけもよかった。</li> </ul> <b>【課題】</b> ・参加する際の担任や部活動顧問への連絡調整。 ・事前事後指導の質を高める。 <b>【改善の方策】</b> ・進路行事がわかり次第、会議等で教員間の連絡調整を図る。 ・「何を学んでそれをどう生かすか」の視点を持たせる。	B	B	A
	③ ・生徒、保護者に対して、的確な進路情報（新入試制度含む）を発信できたか。 ・教員に対して、進路情報を共有できたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に対しては、進路ガイダンス、進路講演会、社会人講話、二者面談などを活用し、また保護者に対しては、学年PTA（講演会・担任との面談）、三者面談などを活用して進路情報を発信した。</li> <li>教員に対しては、学年会、職員会議、職員研修などの活用して進路情報を共有した。</li> </ul> <b>【課題】</b> ・進路相談室の活用。 <b>【改善の方策】</b> ・進路相談室にパソコンを設置するので積極活用を促す。 ・進路行事等を利用して、進路相談室利用の仕方や効果を生徒に話す。	B	B	A
	④ ・結果分析を行ったか。 ・事後指導を行ったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科による分析を行い改善点及び具体的対策を明確にし、それを職員会議で全職員が共有した。</li> <li>担任が模試を返却する際に、簡単な面談等を実施している。授業または課外等で、事後指導を行っている。</li> </ul> <b>【課題】</b> ・成績がなかなか向上しない生徒が一定数存在する。 <b>【改善の方策】</b> ・教科面談など手厚い指導で改善を図る。	B	B	A

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題研究や校外活動等の⑤ 成果を受験に活用できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推薦，AO入試での合格者（合格率）が近年になく高い。課題研究発表や校外諸活動での蓄積が直接的、間接的に関わっていると考えられる。生徒の頑張り（面接・小論文）と教員のサポート（面接小論文指導，課外指導，推薦書等）が上手くかみ合っている。</li> <li>※1/8現在，AO推薦入試の合格率は約80%。</li> <li>【課題】</li> <li>・ 活動内容の記録。</li> <li>【改善の方策】</li> <li>・ 事後指導，特にポートフォリオ記入の徹底を図る。</li> <li>・ 「何を学んでそれをどう生かすか」の視点を持たせる。</li> </ul>	A	A	A
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「本人の希望進路」を実現するためには，①早期に決めること（仮決めでよい）②放課後の自主的な学習が重要なので，引き続き強い指導を願う。</li> <li>・ 大学入試制度改革に向けて，高校での活動の豊かさは望ましい環境である。それを広く活用できる体制が必要である。</li> </ul>				

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
図書情報・探究推進	① ・図書館利用は増加したか	<p>生徒の貸出冊数の推移は、H28年度1611冊、H29年度1187冊、H30年度1742冊(1/15現在)となっており、減少傾向に歯止めをかけることができた。</p> <p>定期的に応報活動を行い、図書委員会が主催する読書活動を増やしたことで読書に親しむ機会も増えた。また、授業で図書館を利用することが増加し、調査研究の活動が見られるようになってきた。</p> <p>【課題】 今後も読書推進の活動を積極的に提供したい。「学習・情報センター」の活用に関しては改善の余地がある。</p> <p>【改善の方策】 より広範囲に司書や教員が関わることで、授業や課題研究における図書館の活用を促すために、多くの案内や宣伝等のPRをこれまで以上に多くする。</p>	B	A	B
	② ・委員会活動は充実したものであったか	<p>年間計画に基づき定期的な読書推進のための活動を行うことができた。</p> <p>ビブリオバトルや読書会の他、各クラスに本を設置するなど主体的に活動した。また、文化祭にも参加し、生徒は充実した活動を行った。</p> <p>【課題】 今年度のように、積極的に活動したい。</p> <p>【改善の方策】 一過性のもとならないように、今後もよりよい委員会活動を運営・支援する。</p>	A	A	A
	③ ・ICTを利活用した授業作りを行うことができたか	<p>短時間ではあったが、ICT活用研修やICTの環境整備により、タブレットを手にする教員が増加し、モニターの密な調整が必要になるほど、授業における利活用が進んだ。</p> <p>【改善の方策】 今後もiPadの台数が増加する予定であるため、モニターの配置や利用調整を円滑なものにしていきたい。</p>	A	A	A
	④ ・適切な管理・整備・運用ができたか	<p>マニュアルに即したiRis Hallや大会議室、視聴覚室等の機器管理や、プロジェクター管理、Zoomの管理を行うことができた。</p> <p>【課題】 機器の触れてはいけない場所が操作される等、マニュアルにない事象が発生した。</p> <p>【改善の方策】 注意喚起を促し、マニュアルに沿った流れでの活用を改めて徹底していく。</p>	B	B	B
	⑤ ・校内LANの保守及び、管理に努める。	<p>SWANⅢへの円滑な移行、サーバー移行を行うことができた。また、構内LANやWi-Fiの的確な保守・管理を行うことができた。</p> <p>【課題】 Wi-Fi接続の不具合が起きることがある。</p> <p>【改善の方策】 年間行事計画や月間行事計画にあらかじめ入れることができるものは入れておき、できるだけ早く研修の日時を周知するようにしたい。</p>	A	A	A
	⑥ ・セキュリティポリシーに則した運用ができたか	<p>「情報モラル研修」を行い、全職員がセキュリティポリシーを確認し、安全かつ適切な運用を行うことができた。</p>	A	A	

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
図書情報・探究推進	⑦ ・よりよいサポートができたか	円滑な集計およびまとめができた。 【改善の方策】 各分掌内で担当者を決めて行えば、更に円滑な集計やまとめを行うことができる。	A	A	A
	⑧ ・迅速なWebページの更新を行うことができたか	CMSへのスムーズな移行を行うことができた。また、原稿作成から掲載までの一連の流れが確立されたため、早期の掲載および更新を行うことができた。 【課題】 最終更新責任者との協力。 【改善の方策】 総務部と協議しながら、決裁後すぐに掲載できる体制を整えたい。	B	B	A
	⑨ ・よりよい研究を行い、教員のスキルが向上したか	ESD教員研修、新学習指導要領施行に伴う教員研修、情報モラル研修、課題研究指導研修等、本校の今後を見据えた教員研修およびこれからの時代に必要なスキルを身に付けるための研修を行うことができた。 【課題】 他の業務との兼ね合い。 【改善の方策】 年間行事計画や月間行事計画にあらかじめ入れることができるものは入れておき、できるだけ早く研修の日時を周知するようにしたい。	A	A	A
	⑩ ・SSH事業に貢献できたか	1年次開講のESD課題研究およびSS課題研究基礎の計画や、ESD発表会に関するコーディネート、Zoomを活用した国際交流や生徒会交流の支援、日々の授業で活用されるiPadの管理等、多くの面で貢献することができた。 【課題】 一部の教員への業務集中。 【改善の方策】 教員の各種委員会を充実させ、委員会内での情報共有から学年、他分掌、そして教員全体の共有をはかっていきたい。	B	B	B
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSHの活動に、より主体性を持たせるためには、身近なところ（図書館）に必要な文献があることが重要である。</li> <li>・インターネットでの検索に頼りすぎないように、指導を願う。（インターネット情報は、オーソライズされたものではないことが多い）</li> <li>・良好な取り組みである。</li> </ul>				

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
保健厚生	① (1) 生徒の健康管理 ・保健調査及び健康診断結果に基づき生徒の健康保持増進に努める。 ・学校保健委員会を年2回実施し、学校医および保護者から指導助言を受ける。 ・1学年を対象に「薬物乱用防止教室」を行い、薬物乱用防止教育の充実を図る。 (2) 教職員の健康管理 ・衛生委員会を年3回実施し健康管理医からの指導助言および健康相談を受ける。	(1) 生徒の健康管理 ・保健調査や健康診断の結果、日々の保健室利用の状況等から個別の保健指導につなげることができた。 ・学校保健委員会（年2回）を実施。指導助言内容については職員会議で周知した。 ・麻薬取締官を講師に招き「薬物乱用防止教室」を開催した。 <b>【課題】</b> ・色覚検査（1年生希望者）の結果、色覚異常または疑いのある生徒についての配慮事項が周知できなかった。 <b>【改善の方策】</b> ・板書についての注意点等、資料を作成し、年度初めに全教員に周知する。 ・対象生徒から学校での困り感を聞き取り、配慮を要する場合は学年等と情報を共有する。 (2) 教職員の健康管理 ・定期健康診断や生活習慣病検診の結果、「要再検」「要医療」に対し、早期に受診するよう呼びかけた。 ・衛生委員会後には健康管理医からの指導助言内容を周知した。 <b>【課題】</b> ・各自の健康管理、疾病予防、休養日の設定を促し、また、再検査の早期受診を勧めたが、受診率は約6割に留まった。 <b>【改善の方策】</b> ・健康管理医との健康相談の調整を図る。	B	B	B
	② ・全生徒、全教員で一斉清掃を行い、校舎内外の環境美化に努める。 ・教室の環境整備や清掃用具の適切な使用方法について呼びかける。 ・教職員による安全点検（年3回）実施し、校内環境の安全を確保する。	・各クラスのゴミ箱の表示を統一し、更に資源ゴミの回収を行うこととした。 ・ほうきの交換を学年ごと実施（1年生12月、2年生1月）、要望のあったバケツなど清掃用具を適正に配置した。 ・安全点検結果を速やかに事務部に報告し、修理、交換等、迅速に対応していただいた。 <b>【課題】</b> ・清掃用具の正しい使い方や保管の仕方について十分な周知ができず清掃用具の破損があった。 <b>【改善の方策】</b> ・集会や清掃活動、保健だより等を通して、正しい使用方法や保管方法の周知徹底を図る。	B	B	A

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価		
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	
保健厚生	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談体制を充実させ、生徒の悩みや問題の早期発見・早期対応を目指す。</li> <li>関係する各種委員会と連携し適切な支援を行う。</li> <li>「相談室だより」「カウンセリングルーム便り」を発行する等、利用しやすい体制を整える。</li> <li>教育相談研修会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対面式でのカウンセラーの紹介、各たより等で申込方法や期日について周知を図り、教育相談体制は浸透したと思われる。</li> <li>教育相談日に実施しているケース会で共有された情報については、必要に応じて生徒指導部、学年等と連携、協力し、生徒及び保護者への支援に繋げた。</li> <li>教育相談研修会では「スクールソーシャルワーカー(SW)と学校の連携」と題して、外部講師より講話をいただき、SWについて理解を深めるとともに、生徒・保護者・教職員に対する支援のあり方を学んだ。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間以外にカウンセリングを希望する生徒もいたが、希望を叶えられなかった。</li> </ul> <p>【改善の方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談の時程を工夫し、放課後の時間も設定したい。</li> </ul>	B	B	B
	④	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体測定時の補助、体育的行事での救護活動の補助</li> <li>月1回の清掃点検や大掃除、奉仕活動での補助作業、教室温度調査の実施等、環境衛生活動を行った。</li> <li>「保健だより」(年4回)を作成、発行。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体測定の記録補助、各検診時にクラスへの連絡事項の伝達を行った。</li> <li>トイレ等の清掃点検を実施し、また自主的に石鹸の補充を行う等環境衛生に努めた。</li> <li>夏季中、気温の上がる1年生教室の温度を毎日測定し、教室の環境把握を行った。</li> <li>季節に即したテーマを設定し、「保健だより」を年4回発行した。</li> </ul>	A	A	
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の「再検査」の推進は、「規則化」しないと向上しない。</li> <li>「カウンセリングを受けていること」は、他の生徒には知られたくないことだと思うので、「放課後」にも設定することは非常に良いことである。</li> <li>問題はさらに複雑化するとは思うが、良好な取り組みである。</li> </ul>					

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
1学年	① ・時間を意識した行動。 ・挨拶、言葉遣い、礼儀作法、服装。 ・生活スケジュール管理、自発的行動。 ・清掃徹底、整理整頓、私物管理。	生徒指導部主導による頭髮服装指導や朝の立ち番指導などでの声かけにより生徒の身なりは立派である。 先を見据えた予定表をクラスに掲示し、逆算して取り組める雰囲気をつくった。 清掃監督がしっかりつくことで、清掃に対する意識の高まりがあり、校舎内外の美化につながった。 年間を通して、欠席・遅刻・早退・欠課が比較的少なかった。また、大きな問題行動も発生せず非常に落ち着いた学校生活ができていた。学習環境も良好な状態が保たれていた。 【課題】 学校評価アンケートの中で、「学校からの保護者宛文書がきちんと届いている」という項目の達成率が例年より低い。 【改善の方策】 まずは声かけをして、生徒に働きかけていきたい。	B	B	B
	② ・授業中心学習、協働的集団づくり。 ・各種学習活動の活用による、基礎学力の定着。 ・学習計画立案と実践、面談等を通じた結果の活用。 ・自主・自発的学習への転換。	各教科においてAI型授業を導入することにより、協働的・継続的な学習習慣は比較的確立されてきている。一方で基礎事項の定着が不十分な生徒もおり、家庭等での自主的な学習時間が例年に比べて少ない。このような状況において、模試や学習時間調査などの結果などを活用して面談を実施し、担任からの意識付けと定着のための働きかけはできていた。その結果、各種検査等において例年並みの結果に追いついてきた。 【課題】 家庭等での自主的な学習時間が例年に比べて少ない。 【改善の方策】 学年集会での告知。臨時の学年便り発行。	B	B	B
	③ ・ガイダンスや面談を通じた進路意識の深化。 ・模試の事前・事後指導で、弱点把握とその克服を促す。 ・課外講習の積極的参加、継続的取組みの指導。 ・校内外の企画、イベントへの積極的参加。	担任による面談の実施や教科担当者による適切な指導により、目標達成に向けた指導と自己分析と理解の手掛かりとなるような指導を多方面から、かつ多様な方法によって実施できた。 また、既成の学校や学年の行事や取組のみならず、実情の改善に向けてできる限りの対策を積極的に行ってきた（家庭学習・課題調査、スタディサプリ自己診断の導入、ポートフォリオの蓄積、など）。また、校内外における各種イベントやフォーラム、企画等にも積極的に参加し、主催者からは生徒の主体的な取り組みの良さを評価された。 【課題】 学校評価アンケートの中で、「進路目標を達成するための取り組み」という項目の達成率が例年並みで低い。 【改善の方策】 進路情報の提供やインターネットを利用して主体的に取り組ませる働きかけを行う。	A	A	A

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的達成の役割の明確化, 主体的取組みの環境整備。</li> <li>・連帯感, 切磋琢磨する意識の高揚。</li> <li>④ 成功体験の積み重ねで, 自信を醸成。</li> <li>・学業との両立を遂行する最大限の努力。</li> </ul>	<p>学校行事や部活動はもちろん, その他の活動においても自主的・自発的に取り組んでいた。LHRの学年行事においても, 年間を通して自分たちで企画, 運営をしていた。その他にも, 各クラスや委員会などの様々な集団においても自主的に活動することができていた。しかし, その一方で, 学校評価アンケートにおいて, 「学校生活の充実度」という項目で, 不十分と感じている生徒が4人に1人という割合であり, 改善を促す働きかけをしていく必要がある。</p> <p><b>【課題】</b> 学校評価アンケートにおいて, 「学校生活の充実度」という項目で, 不十分と感じている生徒が4人に1人という割合であり, 改善を促す働きかけをしていく必要がある。</p> <p><b>【改善の方策】</b> 個人面談や集会等を通じて, 目標の設定や目の前の障壁を乗り越える力をつけさせる。また, 各種外部講師も有効に活用する。</p>	B	B	B
学校関係者評価者による意見	<p>・高校生活, 大学生生活, 会社生活を充実させるためには, スタートダッシュがいかに重要かを理解させるよう, 指導を願う。</p>				

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
2 学 年	① ・挨拶, 礼儀, 服装, 清掃, 生活スケジュール管理などを徹底指導する。	すぐに教員側から指導せず, 生徒自ら動き出すことを意図した指導を全体で意識していった。普段の生活では良好な様子であり, 欠席等も例年と比べてほとんどない状況である。しかしアンケート結果では, これらに関する項目が全体的に下降傾向にあった。 【課題】 自主的意識の自覚と取り組みの継続 【改善の方策】 継続して指導する上で, どの点において生徒たちができていないと感じているのかを観察・分析し, 改善策を実践した。	B	B	A
	② ・模擬試験の結果を活用し, 特に全国平均との差を意識させた指導を行っている。 ・家庭での学習時間の向上を意識させる指導をする。	9月と1月に新たに家庭学習状況調査を実施し, 集計・分析・改善の過程を継続的に行った。 ①11月模試と第3回考査の結果では, 前回および前年度と比較しても上昇傾向にある。しかし, 模試において全国平均に達していない教科がまだある。 ②マークシート集計の準備をしたが, データ読み取りの不具合のため集計ができていない。そのため, 1月は進路希望調査に項目を追加して再実施した。 【課題】 ①成績のさらなる向上, ②データ処理方法の確立とその上での分析。 【改善の方策】 ①分析会などを実施して, 弱点科目の補強策を提案していった。 ②集計ソフトの研究をした。	B	B	A
	③ ・早期に進路希望未定者を0にするよう働きかける。 ・進学希望者の全員が第一志望校をはっきりと書けるようにする。	年間を通してこまめに面談を行い, 遅くとも1月に実施する進路希望調査で0にするように努め, また, 1月以降に行う小論文指導と併せて, 志望校の志望理由の作成もできるように計画的かつ継続的に指導してきた。 ①最近の希望調査においては未定者が残り3名であった。 ②模試において, 全員がほぼ現実的な進路希望先になっていた。 【課題】 未定者の3名の進路希望先の決定の補助 【改善の方策】 3名に対して, 早急に面談等を行い, 的確なサポートをして決定へつなげていった。	B	B	A

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
2 学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や部活動に主体的に取り組ませる環境を整える。</li> <li>④</li> <li>・時間の有効活用を指導する。</li> </ul>	<p>部活動においては、できるだけ現3年生の代の1つ上の実績を目指して、日々努力するよう励ました。また、時間を大幅にロスする原因の1つであるスマートフォンについては、その利用と自制について、時と場合に応じて継続的な指導を行ってきた。①アンケート結果では、取り組みが良好であるものと読み取れた。</p> <p>②スマートフォンの使用制限は、別調査の結果や普通の学校での状況から見て、完全に浸透はしていないようである。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>①質高い活動内容の定着、②スマートフォンの利用自制の向上</p> <p><b>【改善の方策】</b></p> <p>①指導者と生徒のコミュニケーションの向上 ②生徒に対する指導と、学年便りなどで保護者への協力依頼を継続的に行っていく。かつ、放課後や昼休みなどに巡回して指導した。</p>	B	B	B
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、自分が希望する職業に就くためには、無駄な時間（スマホなど）を減らすことが、いかに重要かを繰り返し理解させる。</li> </ul>				

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や礼儀，日常生活の凡事徹底を継続できたか。</li> <li>① ・生徒が自分の生活スケジュールや目標をきちんと管理することができたか。</li> </ul>	<p>日常での声掛けや，集会時の確認，適時の面談などを通して指導した。概ね良好であるが，個人差があり，判断を人に頼っている生徒も見られる。最終的に自分で決断できるように，今後も地道な声掛けや面談をとおして指導する。</p> <p>生徒項目2「生徒にとって挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている」は90.0%（2年次93.6%，1年次90.6%），生徒項目16「自分は，学校の生活指導方針を理解し，ルールを守って規則正しく学校生活をおくっている」は95.6%（2年次96.2%，1年次94.8%）といずれも高評価である。</p> <p>※表中の%数字は「そう思う，だいたいそう思う」以下同様</p>	B	B	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が学習に対して主体的に臨むことができたか。</li> <li>・生徒が模擬試験を活用し，弱点分野の把握や改善に活かすことができたか。</li> <li>② ・生徒が自学，授業，課外講習と連動を図れたか。</li> </ul>	<p>課外講習と自学自習のバランスをしっかりと考えて学習計画を立てるように指導した。模擬試験と復習のリズムを意識させるとともに，模擬試験後の面談において学習改善指導を行った。課外講習を受講した生徒の出席率は高水準を保っている。今後も「授業第一」を掲げ，生徒に授業の重要性を認識させるとともに，教員側もさらなる授業改善の必要があるが，そのための十分な時間が確保できない。業務の精選と優先順位の確認を行う。</p> <p>生徒項目14「自分は，授業を最も大切なものとして意識して取り組んでいる」は68.8%（2年次73.0%，1年次69.5%）にとどまっている。</p>	B	B	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンスや個別面談を通し，進路に対する考えをさらに明確にさせることができたか。</li> <li>③ ・生徒が的確な進路情報の収集を行うことができたか。</li> <li>・進路情報の提供は適時，適切であったか。</li> <li>・生徒の希望進路について保護者との意思の疎通が図られたか。</li> </ul>	<p>各種ガイダンス，講演，進路研究，面談をとおして自分の進路について揺さぶりを掛けながら確固とした道筋を付けていくように指導した。とくに担任面談は継続的に行った。今後も定期的に進路についての自分の考えをまとめさせる機会を設ける必要がある。また，大学進学者向けだけでなく，多様な進路に対応できるようにガイダンスを設定する必要がある。</p> <p>生徒項目3「生徒にとって，進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」で79.7%（2年次81.2%，1年次87.7%）とやや減少。</p> <p>生徒項目15「自分は，進路目標を達成するために課外講習や進路だより，各情報誌などを活用している」は73.5%（2年次51.0%，1年次49.8%）と3年生なので増加しているが，まだ受け身の姿勢が見られる。</p> <p>保護者項目3「お子さんの進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」は83.3%（2年次80.7%，1年次80.1%）とやや増加。</p>	B	B	

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が学校行事に積極的④に参加し、自分の力を発揮することができたか。</li> </ul>	<p>3年生として、各行事においてリーダーシップを発揮する生徒が増加した。前例にとらわれず、改善を図りながらよりよいものにしようと奮闘する姿が随所に見られた。今後も生徒自身が活動する機会を確保するとともに、まだ教員の指示が必要な生徒も少なからず見られるので、自律を促す継続的な声掛けが必要である。</p> <p>生徒項目8「自分にとって、有意義な学校行事がある」は80.1%（2年次81.2%，1年次82.2%）である。</p>	B	B	
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーダーシップを発揮する生徒が増加したのは、非常に良いことである。会社に入ってから「リーダーシップ研修」などは、全く無意味で効果がない。若い時からいろいろな経験を積み重ねて、「結果としてリーダーになる」ものである。</li> </ul>				

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価内容と改善策	自己評価結果	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
事務部	① ・定期的に施設の点検・確認を行っているか ・危険箇所の修理など迅速な対応を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常時、技師による施設の点検・確認を行い、異常を発見した場合や、報告があった場合は速やかに対応している。また、安全点検の結果を基に修繕等を行い、環境整備に努めた。</li> <li>・職員で対応できないものは業者へ依頼し予算措置が必要なものは予算要求している。</li> </ul> <b>【課題】</b> 放送設備（B棟の一部）の不具合や外灯（駐車場テスコート側）の故障等原因が分からないため修理が進んでいないものがある。 <b>【改善の方策】</b> 複数の業者に不具合の原因の調査を依頼し原因を早期に判明させる。予算措置が必要な場合は予算要求を的確に行う。	B	B	B
	② ・会計諸帳簿等の書類作成処理を適正に行っているか。 ・内部統制機能を活かし透明性のある事務処理を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長と事務室長が通帳と出納簿を毎月確認しチェック体制を強化した。</li> <li>・銀行印と通帳は別の金庫に保管し、金庫の鍵はそれぞれ別の職員が管理して適正管理に努めた。</li> <li>・出張何等書類の整理や進捗状況を全員で把握することで旅費の支払い遅延を無くした。</li> </ul> <b>【課題】</b> 今年度の会計指導検査において指摘事項がいくつかあり、評価点数が 前回より下がった。 <b>【改善の方策】</b> 単純なミスによる指摘が多かったので、複数の目で確認することによりミスを無くす。全員でお互いの業務の進捗状況を把握し、業務の停滞を無くす。	B	B	A
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き”安全”の確保に努めること。</li> <li>・良好な取り組みである。</li> </ul>				

### 3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
①多様な学校活動への組織的な対応	<p>これまでの活動に加え、今年度からSSH指定校となり生徒の活動の幅が広がり、それに対応する組織的体制が必要となっている。校務の円滑な遂行には行事や活動の目的や意義を学校全体、全職員が理解し、情報共有することが不可欠である。そのためには教員間の連絡調整を細やかに行い、行事予定や研修会計画を早期の段階に周知する。そして職員の委員会活動を充実させ、分掌のような小さな組織から職員全体に浸透させることにより組織的な対応とつなげる。新しい取り組みと学校としての基本的な取り組みのバランスを考慮し、これまでの成果を蓄積する仕組みをつくることで学校の継続的な成長が期待できる。</p>
②生徒の自主的な活動に対する教員の効果的指導	<p>生徒の活動や発表する機会を確保するとともに報告を丁寧に行い、ホームページや発表会などの情報発信の充実に努める。それにより他の生徒の興味・関心を引き出し、参加者の延べ数を増やす。生徒は経験を積み重ねることが重要で、それが成長につながることを教員が理解し、実践的な研修などを行い日頃から生徒との関わりを広げることに努める。</p>
③各分掌の具体的課題やその改善方策については上記記載のとおり	